未来共創セッション【富山市】

～ 新たな総合計画の策定に向けて ～

令和７年７月１２日

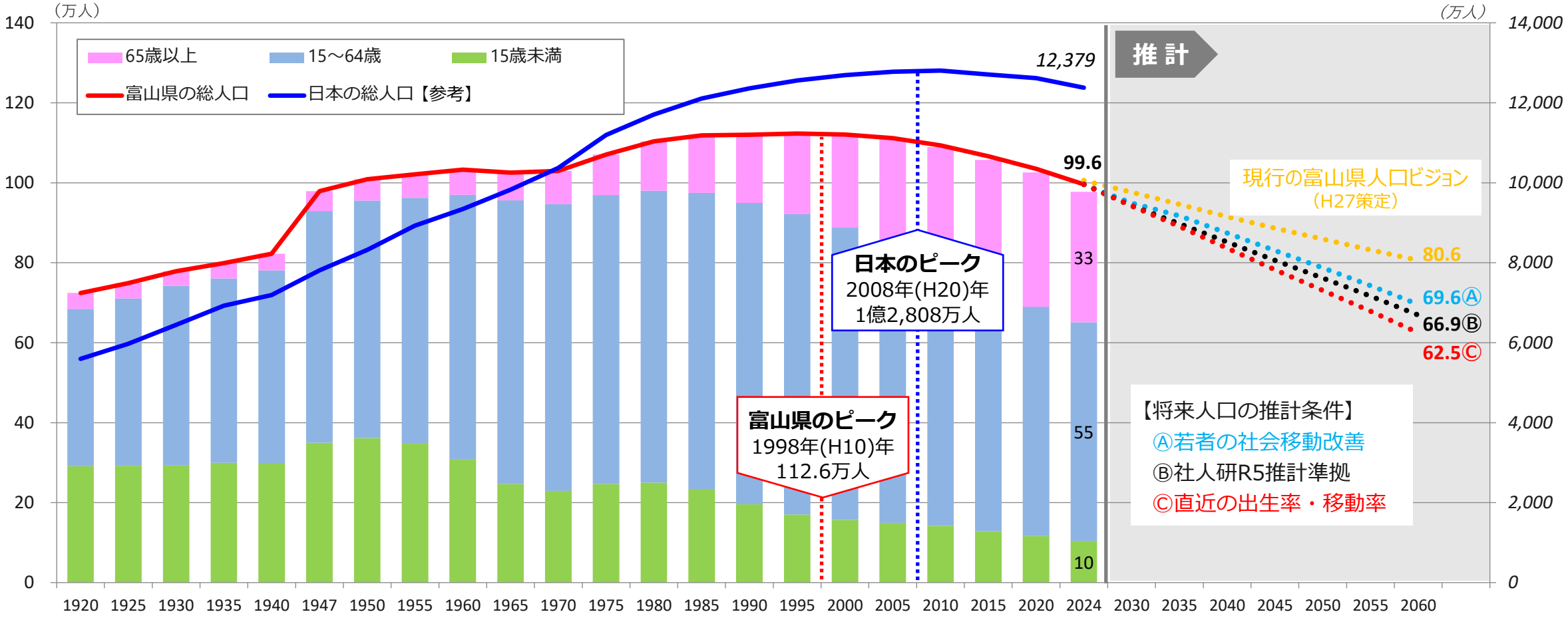
富山県知事　新　田　八　朗

富山県

富山県の人口の推移と将来人口の見通し

○富山県の人口は、全国より10年早い1998年をピークに減少に転じる
　年齢３区分別では、65歳以上の割合が拡大する一方、15歳未満は減少が続いており、人口構成が変化

○国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計や直近の指標を用いて試算した結果、富山県の将来人口は、
　2060年には62～69万人台まで減少する見込み



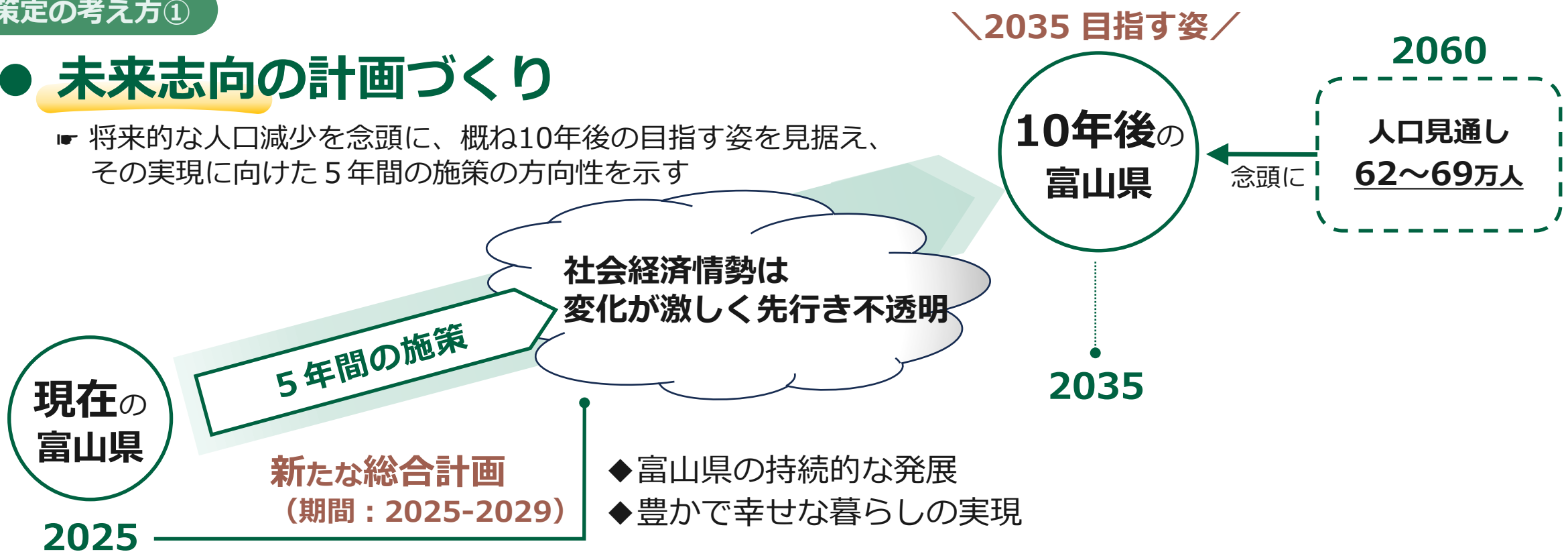
出典：総務省統計局「人口推計」、富山県「人口移動調査」（いずれも各年10月1日現在）、将来推計は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」をもとに富山県試算

新たな総合計画の策定

策定の考え方①

● 未来志向の計画づくり

☛ 将来的な人口減少を念頭に、概ね10年後の目指す姿を見据え、
その実現に向けた５年間の施策の方向性を示す



策定の考え方②

● 県民と共に考え、共に実現する、県民が主役の計画づくり

☛ 計画の策定段階から、多くの県民や関係団体等との意見交換・対話

計画骨子案 ①

1．策定の趣旨

- 現行の総合計画の策定（H30.3）から７年が経過し、富山県を取り巻く社会経済情勢は、計画策定時から大きく変化し、新たな課題への対応が求められている
- このような時こそ、県民が将来への夢と希望をもてるよう、分かりやすいビジョンが必要
- 本県の更なる成長と発展を目指すため、県民が主役の新しい富山県の未来を指し示す、新たな総合計画を策定する

2．計画の位置付け

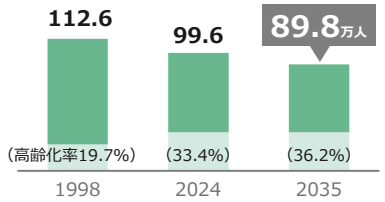
- 県政運営の基本指針、県政全般に関する最上位計画
  まち・ひと・しごと創生法の「都道府県版総合戦略」としても位置づけ

3．計画期間

- 令和７年度～令和11年度までの５年間
  概ね10年後の将来の目指す姿を見据え、その実現に向けた５年間の施策の方向性を示す

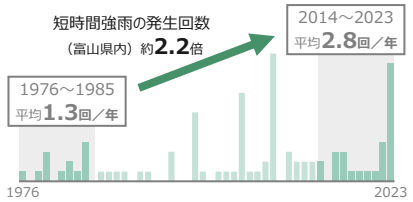
4．富山県を取り巻く環境変化と課題

人口減少と少子高齢化



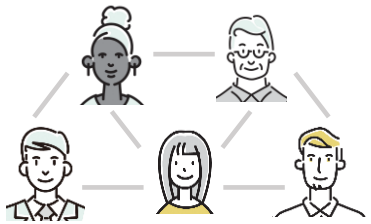
富山県の人口は、1998年の112.6万人をピークに、2035年には89.8万人まで減少すると予想（社人研）。人口減少を緩和する取組みと、将来の人口構造を踏まえた社会づくりが求められる

自然災害の頻発化・激甚化



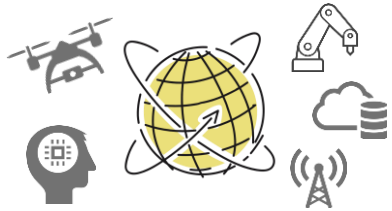
R6能登半島地震では、富山県における観測史上最大の震度5強を記録
気候変動等により、自然災害のリスクは高まってきており、頻発化・激甚化する災害への備えが不可欠

担い手の多様化



ジェンダー平等、働き方改革、外国人材の受入れなど、多様な人々が活躍できる環境整備が進展。年齢、性別、国籍等に関わらず、誰もが活躍でき、共に支え合う社会の実現が求められる

イノベーションの深化グローバル化



AI、ロボット等の先端技術の実装が進み、生活や経済活動の在り方が大きく変化。
技術革新やグローバル化の進展は、産業構造や働き方、暮らし方に変革をもたらすことが期待される

価値観の多様化

コロナ禍を経て、働き方や結婚、幸せや豊かさに関する価値観が多様化。
ウェルビーイングへの関心も高まっている。
誰もが自分らしく暮らせる社会の実現が求められる

計画骨子案 ②

5．富山県の将来像（目指す姿）：基本理念と県づくりの視点～ビジョンと目標～

基本理念　「幸せ人口1000万 ～ウェルビーイング先進地域、富山～」を継承

ワクワク

ワクワクする富山県

ワクワクすることがたくさんあり、
県民が誇りをもって暮らし、国内外から
人や企業を呼び込む求心力がある

しなやか

持続可能でしなやかな富山県

変化に柔軟に対応し、①安全・安心、
快適で、災害に強い生活基盤、
②競争力のある産業基盤がある

共 創

みんなで創る富山県

多様性を認め合い、富山に関わる
全ての人にチャンスがあり、
自分らしい生き方や夢を実現できる

6．２つの柱・12の政策分野 ×「ワンチームとやま」で推進

柱１　未来に向けた人づくり

― 本県の活力を支え、発展の礎となる ―

［政策分野］

01	02	03	04	05	06
こども・子育て	教　育	文化・スポーツ	健康・医療・福祉	スタートアップ	人材活躍・共生

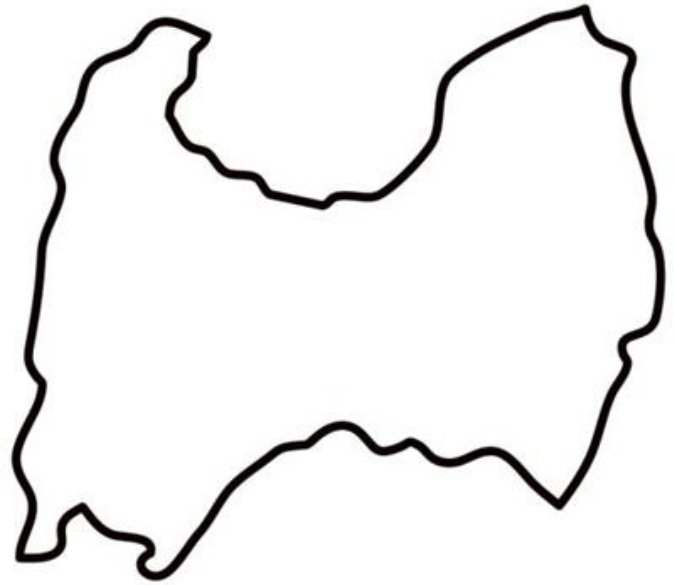
柱２　新しい社会経済システムの構築

― 県民が躍動する舞台を創出する ―

［政策分野］

07	08	09	10	11	12
インフラ・県土強靭化	まちづくり・交通	農林水産	産業・GX	観　光	環　境

＼2035／



ワクワク

共 創

挑 戦

チャンス

笑 顔

しなやか

一緒に描く、みんなでつくる！

新しい「富山の未来」